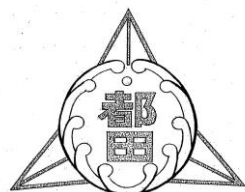


令和7年度  
第4回学校運営協議会



令和8年2月26日(木)  
浜松市立都田小学校

- 1 受付 午後0時45分～午後0時55分【玄関】
- 2 6送会参観 午後1時00分～午後2時00分【体育館】
- 3 挨拶・説明 午後2時10分～午後2時15分【3階 会議室】
- 4 協議会 午後2時15分～午後3時30分【3階 会議室】  
※時間はおよその目安です  
(1) 会長あいさつ【3分】 ※敬称略 (会長 森上)  
(2) 校長あいさつ【3分】 (校長 佐々木)  
(3) 前回会議録確認<資料 P3、4>【3分】 (CSD 杉浦)

- (4) 熟議【60分】 (司会 松嶋)
- ①令和8年度の学校運営基本方針について <別紙 P1> (校長 佐々木)
  
  - ②学校いじめ基本方針について <別紙 P2> (生徒指導 浅井)
  
  - ③学校運営協議会自己評価について <別紙 P3～> (教頭 高林)

- (5) 報告・連絡等【6分】
- ①学校支援コーディネーターより (学校支援コーディネーター 影山)
  - ②夢育やらまいか事業 (CS 加算分) について<資料 P5> (教頭 高林)
  - ③令和7年度卒業証書授与式および令和8年度入学式について (教頭 高林)
  - ④令和8年度の主な行事について (教頭 高林)
  - ⑤オブザーバーより (協働センター 田力)
  - ⑥退任委員の紹介とお礼の言葉 (校長 佐々木)

- (6) 閉会

令和7年度 浜松市立都田小学校 学校運営協議会委員

役職	No.	名 前 (敬称略)	所 属、役 職 等	熟議グループ
	1	カバ ヲ ヲ 小林 宗吉	都田地区自治会連合会 前会長	A
	2	マサ イ 山下 英治	滝沢放歌踊り保存会 会長	B
	3	ハノ シ 波多野千津子	浜松北地域まちづくり協議会 会長	A
	4	ミカミ シ 森上 茂美	主任児童委員	B
	5	カガ ヤ ヲ 影山 善久	都田小学校 元PTA会長 学校支援コーディネーター	B
	6	ウチヤマ ヒトミ 内山 眸	都田小学校 元PTA会長	B
	7	アミ ワル 渥美 渡	都田小学校 前PTA会長	A
	8	マツノ シ 松嶋 千智	都田小学校 PTA会長	A

学校職員

1	サキ カヤ 佐々木 和也	校長
2	タカバ ヲ ヒデシ 高林 秀仁	教頭
3	ジフキ キカ 地福 清香	教務主任 CS担当教員
4	アサ アカ 浅井 愛架	生徒指導主任
5	スギウラ ヒトミ 杉浦 ひとみ	CSディレクター

オブザーバー

	タカ カ シュウタ 田カ 秀太	浜松市都田協働センター
--	--------------------	-------------

令和7年度 第3回 都田小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年12月17日（水） 9時30分から11時50分まで
- 2 開催場所 都田小学校 会議室
- 3 出席委員 山下 英治、波多野 千津子、森上 茂美、  
内山 眸、渥美 渡、松嶋 千智
- 4 欠席委員 小林 宗吉、影山 善久
- 5 オブザーバー 田力 秀太（都田協働センター）
- 6 学 校 佐々木 和也（校長）、高林 秀仁（教頭）、地福 清香（教務主任）  
杉浦 ひとみ（CSディレクター）
- 7 教育委員会 山本 美世絵指導主事
- 8 傍聴者 なし
- 9 会議録作成者 CSディレクター 杉浦 ひとみ

10 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、森上会長から渥美委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

11 会議記録

司会の教頭から、委員総数8人のうち6人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

12 学校評価の結果と今後の取り組みについて

教務主任の地福から今年度7月と11月に行われた学校評価アンケートの結果をもとに、都田小学校が掲げる目指す子供の姿に関わる成果と課題について説明があった。

13 <議題①>

授業や行事で子供たちの様子を御覧いただいたり、学校評価の結果と報告を受けたりして、◎良かった点や継続したい点、また▲課題点や改善点はどんなことだったか。

【Aグループ：波多野委員、渥美委員、松嶋委員】

◎良かった点や継続したい点

- ・先日行われた学習発表会では1年生から6年生まで全児童が学年を越えて発表内容を見ることができ、小規模校ならではの良さを感じられた。
- ・学校評価のアンケート項目の「そう思う」と、「だいたいそう思う」を足すと90パーセントに達することを踏まえ、取り組みは継続して実施しても良いのではないか。

▲課題点や改善点

- ・児童に対するアンケートの質問文が伝わりにくい表現になっているのではないか。  
例として、「そう思う」と、「だいたいそう思う」。

【Bグループ：森上委員、山下委員、内山委員】

◎良かった点や継続したい点

- ・米農家やくだもの農家、花屋などの外部講師を招いての授業は、子供たちにとっても良い影響を与えている。そういった方々から今の勉強が将来の役に立っているということ伝えていただくことで、子供たちの励みになっているのではないか。

- ・クラス担任が子供たち一人一人に日々の良かったことを褒めているのを聞いて、人の良いところを見ることができ、また自分の良いところも認められるようになっている様子である。

#### ▲課題点や改善点

- ・学校評価アンケートに「進んで課題を見つけ、見通しをもって活動することができる。」という表現があるが、特に低学年の子供たちにとっては「進んで課題を見つけ」や、「見通しをもって活動する」という意味を分かってアンケートに答えているのか疑問である。今回の持久走記録会では各自目標としていた記録をたくさんの子供たちが上回る成果を見せていた。アンケート結果が低いのは設問の表現の難しさもあるのではないか。
- ・学校評価アンケートの「命を大切にし、自分の心と体を元気にすることができる」の項目では児童の回答が1学期に比べ2学期が下回った。特に心の元気さについて評価が低かったことから、SNSが深刻な影響を与えているのではないかと感じた。SNSに対する講座を学校で取り組んでいるが、家庭ではどのように取り組んでいるのだろう。家庭でのSNSに対する意識についても考える必要がある。

#### <議題②>

今年度は登下校中に子供同士のトラブルがあったり、熊の目撃情報があったりした。より安全に登下校するために地域や家庭でできそうなことは何があるか。

【Aグループ：波多野委員、渥美委員、松嶋委員】

- ・登下校時には保護者や地域の方と連携して通学路に立って目を配ってほしい。本当に熊が出たらすぐに行政に頼むことも必要だ。
- ・登下校時の子供同士のトラブル改善に関しては集合時間を守ることが大切。

#### <合議>

- ・学校評価のアンケートによって実態がわかる。(山下委員)
- ・保護者が言ってくれる意見は大切にしたい。(波多野委員)

#### 14 その他報告事項等

- ・学校支援コーディネーターの活動に関して、教頭から今年10月に行われた4年生、5年生の臨海学校でのキャンプファイヤーのトーチ作成に影山委員が携わってくれたこと、また毎年行われる4年生の都田川調査には児童の祖父がご協力いただいた事について発表があった。
- ・都田協働センターの田力さんから、島根県で行われた通学合宿についての報告があった。協働センターで子供たちが寝食を共にし、協働センターから学校に通学するという3泊4日の体験が良かった。都田でもトライしたい。
- ・教育委員会の山本指導主事から、本日行われた持久走記録会を見学し、学年の垣根を越えて応援しあう子供たちの姿勢が素晴らしかったと発表があった。
- ・教頭から、次回会議は、令和8年2月26日(木)午後1時から午後3時30分、会議室で開催する旨の報告があった。

(様式1)

令和 7年 5月15日

浜松市立都田小学校  
夢をはぐくむ学校づくり推進協議会  
代表 小林 宗吉 様

浜松市立都田小学校運営協議会  
会長 森上 茂美

### 夢育やらまいか事業に対する意見書

令和7年5月15日に開催した学校運営協議会において、下記の意見を議決しましたので報告します。

#### 記

#### 1 学校運営の基本方針を具現化するための意見

- ① 河西訓導の教えであり、学校教育目標にも掲げられている「命の尊厳」を学ぶために、栽培活動を行うべきである。
  - ⇒ 花苗を大量に購入し、児童が毎日世話をする。
  - ⇒ 栽培活動をポスターやお便り等にまとめて、校内に周知したり、広めたりする。
- ② 学校教育目標に掲げられている「夢に向かう」子供の姿を実現するために、キャリア教育と情報教育の推進を行うべきである。
  - ⇒ 講師をお招きし、仕事やそれに向かうための姿勢についてお話を伺う。
  - ⇒ 情報通信機器を使って、講師の講話を整理したり、他の様々な職種について調べたり、まとめたりする。

# 熟議資料

＜国の第4期教育振興基本計画(R5～R9)＞ コンセプト

- ・2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成
- ・日本社会に根差したウェルビーイングの向上

＜浜松市の教育理念＞

描く夢や未来の実現」(主体性、多様性・包摂性、信頼・協働)

＜目指すこどもの姿＞

- 自分らしさを大切にすることも
- 他者と協働し、主体的に行動できるこども
- 自己調整しながら、粘り強く取り組むこども

＜都田中学校区

目指す子供像＞

○夢に向かって努力する子

○郷土を愛し、郷土に誇りをもつ子

学校教育目標

夢に向かって 命を輝かせる子

学び合う子・心豊かな子・元気な子

学び合う子【知】

(目指す子供像)

- 学びの楽しさや価値に気づき、主体的に学ぶことができる子
- 相手の思いや考えを聴き、自身に生かすことができる子

心豊かな子【徳】

(目指す子供像)

- 心を込めた挨拶をすることができる子
- 自他のよさや違いを大切にすることができる子

元気な子【体】

(目指す子供像)

- 進んで体を動かすことができる子
- 心と体を大切にできる子



- キャリア教育を基盤に据え、児童一人一人が自己を見つめながら、それぞれに応じた生きる力(自分らしさを発揮できる力)を育む教育
- 河西先生から学ぶ「命の尊厳」の教育  
＝「命を大切にする誓いの言葉」
- 都田地域の人(保護者を含む)・こと・物との関わりを大切にした教育
- 子供を見つめる時間を創出するための取組



＜キャリア教育＞教育活動を通して育つ基礎的・汎用的能力



聞く・伝える力

人間関係形成・社会形成能力



チャレンジする力

自己理解・自己管理能力



考える力

課題対応能力



つなげる力

キャリアプランニング能力

# 浜松市立都田小学校いじめ防止基本方針【改定のポイント】

## 改定の概要

- ・「校内いじめ対策委員会の組織と役割、教職員の役割を明記
- ・いじめの未然防止に関する取組を充実、具体化
- ・いじめの組織対応について明記

## いじめの定義

いじめとは、学校に在籍する児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものを含む。)であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいいます。

## 第1 いじめの防止等のための基本的な考え方

### 1 いじめの定義

- いじめ防止対策推進法第2条第1項及びに同じ=人権、命の尊厳にかかわる問題
- いじめの認知は、校内いじめ対策委員会を活用して行う
- 犯罪行為、重大事態等、必要に応じて警察と連携する

### 2 いじめの理解

- いじめはどの子供にも起こりうるものであり、集団全体にいじめを許さない雰囲気生まれるようにすることが必要

### 3 いじめの防止等に関する基本的考え方

#### (1)いじめの未然防止

- 全ての子供に、「いじめは決して許されない」ことの理解を促し、心の通う人間関係の素地を養う。
- 全ての子供が安心でき、自己有用感や充実感を感じられる学校生活づくりを行う。

#### (2)いじめの早期発見

- ささいな変化に気付き、いじめではないかとの疑いを持って、早い段階からの確に関わり、積極的にいじめを認知する。

#### (3)いじめへの対処

- 具体的な対応方針、指導計画、体制を整備する。
- 子供の「健やかな成長」を願って支援・指導する。

#### (4)地域や家庭との連携

- PTA、学校運営協議会制度などを活用し、地域、家庭と連携する。

### 2 いじめの防止等に関する取組

#### (1)都田小年間指導計画

- 学校の教育活動を、いじめの未然防止の観点から見直し、年間指導計画を作成

#### (2)いじめの未然防止

- 学校目標「夢に向かって命を輝かせる子」の具現化を目指し、すべての教育活動を通して、「いじめが起きにくい・いじめを許さない学校づくり」に取り組む。

#### □子供たちとの取組

- ア 子供がいじめの問題について考え、議論する(命について考える「河西先生物語」、情報モラル等)
- イ 授業づくりや集団作り(キャリア教育を根底に据えた教育活動、授業改善、行事や校外学習)
- ウ 道徳教育の充実(「生命尊重」等、道徳教育の充実、ほかほかメッセージカード)
- エ 子供一人一人の特性や多様性に配慮した適切な指導や支援(天白班活動等)
- オ 自己有用感を育み、自己肯定感を高める活動(ストレスマネジメント、メディアコントロール等)

#### (3)いじめの早期発見

- はままついじめアンケート(年3回)、アンケート後の個人面談(年3回)

#### (4)いじめに対する措置

- いじめ、又はいじめの疑いのある行為を発見した場合は、直ちにいじめを受けた子供やいじめを知らせてきた子供の安全を確保した上で、組織的に対応する。

#### (5)関係機関との連携(事案の認知毎月および月に1回、教育委員会に送付)

#### (6)学校における教育相談体制の整備

#### (7)教職員の資質向上のための研修会や校内OJTの取組

#### (8)いじめが「解消している」状態

- いじめに係る行為が止んでいること(少なくとも3か月を目安)
- いじめを受けた子供が心身の苦痛を感じていないこと

#### (9)「浜松市立都田小学校いじめ防止基本方針」の公表と説明、評価・見直し

### 3 地域や家庭の役割

#### (1)地域の役割

- 地域の人たちが、子供に積極的に関わり、温かい気持ちで接することができるよう学校の情報を適切に発信する。

#### (2)家庭の役割

- 「ルールやマナーを守ること」を子供に教える。
- 子供からいじめの相談を受けたら、学校へ通報するなど適切な措置をとる。
- 子供との触れ合いや対話を大切にする。子供のありのままを受け止め、「あなたの味方だよ。」と子供が安心感や信頼感で満たされるように努める。
- 日頃の対話や言動等から、いじめ等を背景とした子供のちょっとした様子の変化を見逃さず、学校や地域と連携して、いじめの早期発見に努める。

## 第2 いじめの防止等のための対策

### 1 いじめの防止等のための組織

#### (1)「校内いじめ対策委員会の組織と役割

校長(委員長)、教頭、教務主任、いじめ対策コーディネーター兼生徒指導担当教員、養護教諭、学級担任(必要に応じて、発達支援コーディネーター、SC、SSW等)

- 毎月1回。事案が発生した際には随時開催。

#### (2)いじめの防止等における教職員の役割

##### ①いじめ対策コーディネーターの設置と役割

- 会議などの企画・運営
- 情報収集、実態把握、保護者・地域・関係機関との連携窓口
- いじめが起きにくい・いじめを許さない環境づくりに資する指導推進
- 校内研修の企画・運営

##### ②教職員の役割

- いじめの未然防止、早期発見、早期対応が組織的、実効的に機能するよう明記

## 第3 重大事態への対処

- 教育委員会へ報告し、市の方針に基づき対応

### 【都田小いじめ防止等のための基本方針】

<https://www.city.hamamatsu-szo.ed.jp/miyakoda-e/create/prevent/file/10495/ijimebousikihonnhousinn.pdf>



(様式1)

令和7年度 学校運営協議会自己評価表

<本年度の目標>

・学校支援活動をより積極的・自発的に行いたい。その結果を振り返ることで、活動を充実させていきたい。

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

⇒ **ア** よくできた **イ** できた **ウ** あまりできなかった **エ** できなかった  
(理由) 4名 3名

- ・主に体力向上と挨拶を具体的な目標として話し合われた。
- ・学校で取り組んでいるキャリア教育について理解できた。
- ・「都田大好き」な児童たちが育っていることを協議会で理解できた。
- ・各項目について、委員は的確に理解し、積極的に意見を述べていた。
- ・協議会のメンバーと意見を出し合い、お互いの話を聞き合い、より良い意見としてまとめ、発信することができた。
- ・学校サイドが運営協議会の意見をしっかりと聞いてくれた。
- ・「子供にとって本当に必要なことは何か」という視点で捉えながら協議することができた。
- ・形式的な確認にとどまらず、子供の成長や安心につながる内容であることを意識して意見交換を行い、理解を深めることができた。

<評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

⇒ **ア** よくできた **イ** できた **ウ** あまりできなかった **エ** できなかった  
(理由) 5名 2名

- ・会で話し合ったことを校内でできる範囲で実践されている報告があった。また、協議会からも建設的な意見が出された。
- ・学校行事や職員研修に参加して、基本方針に沿って運営されていることを理解し、熟議を重ねることができた。
- ・学校支援活動について、教育目標とのつながりや、学校・家庭・地域の役割分担を考え、見直すことができた。
- ・教育活動と支援活動の目指すところが明確に一致していた。
- ・学校、家庭、地域の三者の役割がはっきりと出せた。
- ・協議会での提案を基に親子での挨拶運動や、地域人材（近隣の大学生）による昼休みを使っての運動ができた。これらの取り組みは、子供が人との関わりの中で挨拶の大切さや体を動かすことの楽しさを実感する機会になったと思う。

＜評価項目3＞ 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

⇒ ア 充分に行った (理由) 1名      イ 行った 5名      ウ あまり行わなかった 1名      エ 行わなかった

- ・ コミスクだよりの発行で、地域や保護者へも発信できた。
- ・ コミスクだよりに協議内容が詳しく表記されている。協議会の活動については保護者の理解が少しずつ増えてきたように感じる。
- ・ 学校だよりの中で地域に知らせた。協議会の存在を地域にも知らせることができた。
- ・ 十分な情報発信ではなかったが、ある程度は発信できたと考える。
- ・ 発信の方法（手法）が乏しいのではないか。
- ・ 協議会全体からの発信には限界があるので、考える必要があると思う。
- ・ コミスクだよりで十分発信されていたと思う。

＜評価項目4＞ 今年度の評価を踏まえた来年度の目標

- ・ 当日に各委員の意見を伺って、相談して決めたい。
- ・ 地域一体の活動を積極的に行い、**対外発表**の場を作る。
- ・ 協議会での協議結果を今まで以上に**情報発信**するとともに、地域と学校を今より密着させていく。
- ・ 熟議時間の効率化を図るために、各グループの長を決めておくとよい。
- ・ 熟議内容をより身近に感じるために、内容に沿った子供たちの声が聞けるとよい。（例えば内容に沿ったアンケート結果など）
- ・ 協議会の中では、教職員・保護者・地域が共通の思いの下で協議を重ねることができた。来年度はその方向性や温度感を**より広く家庭へも伝え、共有**していくことが課題と考える。学校、家庭、地域が同じ思いで子供を支える体制づくりを一層進めていきたい。

(様式1)

学校番号 (小・**中**)

令和7年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立 ( ) 学校運営協議会長

<本年度の目標>

・学校支援活動をより積極的・自発的に行いたい。その結果を振り返ることで、活動を充実させていきたい。

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

⇒ ア よくできた イ できた ウ あまりできなかった エ できなかった  
(理由)

<評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

⇒ ア よくできた イ できた ウ あまりできなかった エ できなかった  
(理由)

<評価項目3> 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

⇒ ア 充分に行った イ 行った ウ あまり行わなかった エ 行わなかった  
(理由)

<評価項目4> 今年度の評価を踏まえた来年度の目標